

平成 25 年度施策マネジメントシート1(平成24年度実績の評価)

作成日 平成 25 年 8 月 29 日

総合 計画 体系	政策名	V 賑わいあふれる雲南市 《産業・雇用》	施策主管課	商工観光課
			施策統括課長	中村 清男
	施策名	35 観光の振興	関係課	政策推進課,ダム対策課,地域振興課, 事業管理課

1. 施策の目的と指標

目的	①対象(誰、何を対象としているのか)		対象指標	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	市外の人	A	市外人口	千人	実績	127,990	128,015	127,758	127,471		
					見込			126,871	126,564	126,213	125,821
		B			実績						
					見込						
		C			実績						
					見込						
	②意図(どのような状態にするのか)		成果指標	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	A)雲南市を訪れてもらう。 B)市内で消費してもらう。	A	観光入込客数	万人	実績	88.4	88.5	95.0	96.6		
					目標			92.0	95.0	97.0	100.0
		B	観光消費額	百万円	実績	3,846	3,771	3,715	※未確定		
				目標			4,003	4,133	4,220	4,351	
C				実績							
				目標							
	D			実績							
			目標								
成果指標設定の考え方 (成果指標設定の理由)			A)雲南市を訪れる人を増やすためには、観光入込客が増えることが必要であると考えた。 B)市内で消費してもらえば、観光消費額が増えると考え、島根県の観光消費額調査結果から観光入込客率により按分して算出することとした。								
成果指標の測定企画 (実績値の把握方法)			A)島根県観光動態調査(毎年)と市独自調査による B)島根県観光動態調査の観光消費額調査結果を元に、商工観光課で按分試算。								
目標設定とその根拠 (基本計画策定時)			A)国が観光立国を目指しており、古事記編纂1300年記念や出雲大社遷宮、中国横断自動車道尾道松江線の開通、尾原ダムの完成など、国、県の動向により県全体の観光動向は好転要素が多い。成行値は微増の傾向と予測する。目標値は、広域連携の推進などの様々な観光振興策により、H20実績を勘案した上で毎年2、3万人程度増加させH26年100万人とする。 B)今後の消費単価が上がる要素は考え難い。成行値は前年実績から換算し、観光入込客数に比例した額とする。目標値においても同様に、観光入込客数に比例した額とする。								

2. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
① 情報発信の推進	市外の人	観光情報を得てもらう。	観光協会HP累計アクセス件数	件	実績	-	-	(推計) 62,000	81,186		
② 観光資源の開発・充実	市外の人	市内で消費してもらう。	観光消費額	百万円	実績	3,846	3,771	3,715	※未確定		
③ 受け地づくりの推進	市外の人	受け入れる。	観光ガイド実績、観光タクシー実績	人	実績	210	1,015	2,243	1,667		
④					実績						
⑤					実績						

3. 施策の役割分担と状況変化

役割 分担	住民(事業所、地域、団体)の役割		行政(市、県、国)の役割	
	●地域の価値や知識を身につける。 ●観光客に対するおもてなしの気持ちをもって接する。		●雲南市の情報発信に努める。 ●他市町村と連携し、広域的観光振興を図る。 ●観光客の受け入れ体制を整え、充実させる。	
状況 変化	A) 施策を取り巻く状況(対象や根拠法令、社会情勢等)は、今後どのように変化するか?(本年度を見越して)		B) この施策に対して、住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?	
	○島根県では古事記や風土記など、神話を題材とした継続的な観光振興が求められている。○松江自動車道の開通により、高速道路を活用した市内への誘客が期待される反面、国道54号沿線の衰退が危惧される。○H24年度に尾原ダムが完成し、周辺施設を活用した集客が期待される。○H24年度から菅谷たたら山内の保存改修事業に着手した。○市有観光施設の老朽化が進んでいる。		○尾道松江線を活用した観光振興策が求められる反面、国道54号沿線の衰退を危惧した振興策が求められている。 ○たたらば舌番地等を拠点とした交流人口の拡大を求める意見がある。 ○神話や銅鐸、たたら、桜、さくらおろち湖など地域資源を積極的に活用した観光振興策による交流人口の拡大、産業の振興に対する意見・期待がある。	

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べた成果水準)	
☐ 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 ☐ 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 ☒ 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 ☐ 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 ☐ 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	背景・要因 ○H23年の島根県観光動態調査の結果では、県全体では観光入込客数は前年比較△3.2%であり、各地域ともに総じて減少傾向にある。一方、雲南地域は近年増加傾向を示しているが伸び率は鈍化している。雲南市の独自調査の結果でも同様に伸びを示しているが、総体的にはほぼ同水準と判断する。

平成25年度施策マネジメントシート2(平成24年度実績の評価)

《35 観光の振興》

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

時系列での比較(成果水準の推移)	
☐ 成果がかなり向上した ☒ 成果がどちらかと言えば向上した ☐ 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) ☐ 成果がどちらかと言えば低下した ☐ 成果がかなり低下した	背景・要因 ○雲南市独自調査の結果、観光入込客数は増加傾向にあるため、成果としてはどちらかと言えば向上したと考える。

5. 施策の振り返り評価

施策の目標達成度(前年度の成果指標値に対する実績値の達成度)	
☒ 目標値より高い実績だった ☐ 目標値どおりの実績値だった ☐ 目標値より低い実績値だった	背景・要因 ○パワースポットや神話への関心の高まりなどの社会的背景に合わせ、神話博しまねの取り組みや雲南市の観光施策を展開したことが観光入込客数の増加につながっている。

基本事業	取り組んだ事務事業の総括(事務事業貢献度評価:貢献した事務事業、課題が残った事務事業)
① 情報発信の推進	・広島地区観光情報発信事業実行委員会参画事業(島根ふるさとフェア等)や観光宣伝事業などによる広島圏域への情報発信により、観光入込客の増加が図れた。・神話博しまねや山陰ディスティネーションキャンペーン等が行われた。・観光HPの新設やうんなん幸あり月(PR月間)の開始により、広範に情報発信した。・尾原ダムの完成に伴い志津見ダムとの連携によるイベントを開催した。
② 観光資源の開発・充実	・市内観光事業者と連携し実施したヤマタノオロチ伝承ツアー(39回実施)により、県外観光客の増加が図られた。古事記編さん1300年関連事業の効果もあり、関心が非常に高かった。・尾原ダムの完成により、さくらおろち湖を活用した観光メニューの充実が図られた。
③ 受け地づくりの推進	・雲南市観光協会による観光ガイド研修によりガイドのスキルアップを図った。 ・古事記編さん1300年関連事業を活用し、地域で神話に関連した取り組み(講演会、学習会等)が行われた。
④	
⑤	

6. 今後の課題と次年度の方針(案)

区 分		今後の課題	次年度の方針(案)
施 策		○観光入込客の増加を観光消費額の増加につなげていく必要がある。 ○尾道松江線開通のメリットを活かし、雲南市の地域資源を活かした取り組みを進めていく必要がある。 ○古事記編さん1300年を契機とした取り組みが一過性に終わらないよう継続して取り組んでいく必要がある。	○観光入込客の増加を観光消費額の増加につなげていく。 ○尾道松江線開通のメリットを活かし、雲南市の地域資源を活かした取り組みを進めていく。 ○古事記編さん1300年を契機とした取り組みが一過性に終わらないよう継続して取り組んでいく。 ○関係機関等で構成する検討会議、連絡会議等との連携により広域的な観光振興を進めていく。
基本事業	① 情報発信の推進	○高速道路の開通に合わせた情報発信を行っていく必要がある。 ○「道の駅」の効果的な活用を図っていく必要がある。 ○関係団体との連携による相乗効果を出していく必要がある。	○尾道松江線の全線開通に合わせ、山陽・関西・四国を視野に入れた情報発信に取り組んでいく。○「道の駅」の観光案内機能の充実を図る。○関係団体と連携して神話や鉄等の情報発信を行っていく。○雲南市制10周年行事と連携し、うんなん幸あり月などに取り組む。○雲南PR大使を活用した情報発信を行う。
	② 観光資源の開発・充実	○古事記編さん1300年事業による効果を継続していく必要がある。 ○パワースポットや神話、鉄等に関連する観光資源の開発・活用に取り組んでいく必要がある。 ○「食」などの地域資源を観光につなげる必要がある。	○神話事業を継続し、ヤマタノオロチ伝承地に関する整備を進めていく。○神話や鉄、遺跡、桜、さくらおろち湖周辺などを活用した観光ツアーを企画・実施し、内容の充実をめぐる。○農・商・工連携による魅力的な特産品を観光に活かしていく。○コミュニティによる観光交流メニューづくりを支援していく。○市内観光関連事業者、地域自主組織、NPO法人等が参画した「観光未来会議(塾)」により、地域資源を活用した商品開発を行う。
	③ 受け地づくりの推進	○観光ガイドのスキルアップを図っていく必要である。 ○2次交通を充実させていく必要がある。 ○市民一人ひとりがおもてなしの心を培っていく必要がある。 ○観光施設の老朽化や市内宿泊施設の対策が必要である。	○観光ガイドのスキルアップや養成による充実を図っていく。 ○観光タクシー事業の充実を図っていく。 ○コミュニティによる観光交流事業の支援や「観光未来会議(塾)」でのスキルアップを図っていく。 ○観光施設の老朽対策を計画的に進めていく。
	④		
	⑤		